

全体研修会の概要

- 〈第1回〉令和5年 7月21日（金）新潟市役所
- 〈第2回〉令和5年 10月18日（水）西川地区公民館
- 〈第3回〉令和6年 1月11日（木）新潟市役所

全体研修会は全3回開催し、事業計画の組み立ての考え方や手順に関する講義と、チーム間の話し合いや情報交換を行いました。

第1回 全体研修会

- 事業計画づくりの考え方と手順を学ぶ
- 課題の深掘り
(前提条件や地域状況の整理)

少々緊張気味ながらも和やかにスタートした研修会初回。各チームが取り組むテーマを発表した後、事業を組み立てる際の考え方やポイント、手順について、NPO法人まぢラボ・斎藤主税氏が講義しました。

課題に対してはその解決策をすぐに考えがちですが、適切な解決策を見つけたり実際に取り組むためには「段取り」が必須。まず段取りを組むことから始める必要があります。そしてその段取りの中では、根本的な目的や達成目標を明確にすること、現状や前提条件をしっかりと把握することが重要で、ここが事業の根幹となります。この事業の根幹を「基軸」と表し、各チームそれぞれのテーマにおいて「基軸」を整理することから始めました。

また、課題や達成目標はできるだけ具体的に表すことが大切で、課題を具体的に深掘りの方法についても解説されました。

基軸を整理する話し合いでは、チームごとに活発な意見交換が行われ、あらためて見直すチームも出てきました。次回研修会までにそれぞれで基軸を整理し、「どんな課題に対し何をを行うか」を明らかにすることになりました。



第2回 全体研修会

- 各チームの基軸の整理に対するアドバイスとミニ講義
- 課題の深掘りと次のアクションに向けた意見交換

第2回研修会は、基軸を整理したシートを持ち寄り、4チームで学び合いを行いました。基軸の整理には各チームとも苦労した模様。そこで、悩みの相談なども含め、チームメンバーを混在させたグループ編成で意見交換しました。自分たちだけで考えていると行き詰まることもありますが、他の視点を入れると新たな気づきが生まれます。足りない部分がわかったり励まし合いにもなり、さらに検討を進めることとなりました。

第3回 全体研修会

- 各チームの事業内容の発表
- 計画の仕上げに向けた意見交換
- 講師からのアドバイス

研修会最終回は、各チームがこれまでの調査や検討によって作成した事業計画案を発表、令和6年度からの活動の詳細を検討しました。講師からは「そもそも何をやりたいのか、という根本の考え方を常に持ち続けることが大切だ」「実験的取り組みは重要。より良い方法が見つかることもある」といったアドバイスがありました。

計画の詳細をさらに詰めていくチームもありますが、春からは実践活動がスタート。各チームの取り組みが期待されます。

地域課題の解決と団体の自立を目指す

令和6年3月

地域力UPチャレンジ事業 ニュースレター

発行：新潟市市民協働課 〈TEL〉 025-226-1105
協力：NPO 法人まぢラボ

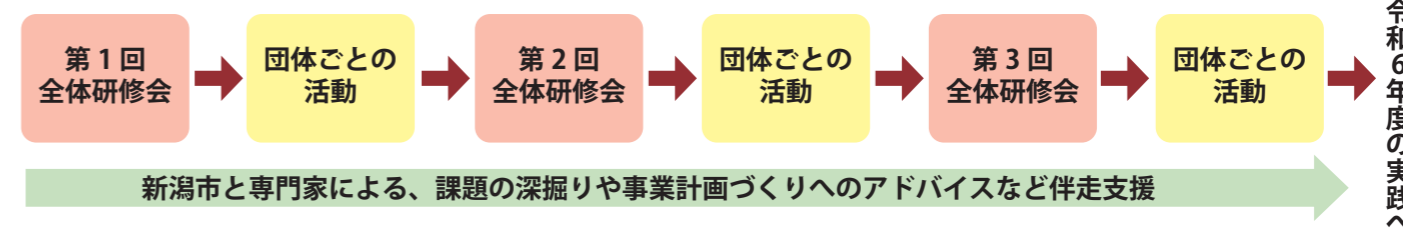
「地域力UPチャレンジ事業」は、地域の困りごとを解決しながら持続可能な地域づくりを進めるため、令和5年度から始まった支援事業です。地域の団体が自立して地域課題の解決ができるよう、課題の深掘りから事業計画づくり、実践まで伴走型で新潟市と専門家が支援します。



〈全体研修会のように〉研修会では講義の他にコミ協どうしの意見交換を行い、関係づくりと学び合いを深めました。

令和5年春に市内コミ協等から参加を募り、4つの地域が課題解決に向けた検討をスタートさせました。本事業に取り組むために結成された各チームは、全体研修会で学びを得た後、それぞれで話し合いや調査、学習を進め、令和6年度からの3年間の事業計画案をまとめました。今後は設定した目標の達成に向け、具体的な取り組みを実践していきます。

地域力UPチャレンジ事業 初年度のプロセス



上所校区コミュニティ協議会（中央区）

新駅を地域で育てる

西内野コミュニティ協議会（西区）

西内野・地域力UPチャレンジ事業

岩室地域コミュニティ協議会（間瀬未来会議／西蒲区）

住環境再生 空き家・空き地リユースプロジェクト

角田地区コミュニティ協議会（西蒲区）

地域の浜茶屋プロジェクト

令和5年度、検討に取り組んだ団体はこちら！
取り組み内容は中面をご覧ください

地域力UPチャレンジ事業は、令和6年度も地域課題の解決に取り組むコミ協を新たに募集します。応募を検討されるコミ協は、市のホームページに掲載している募集要項をご確認ください。

4 チームの今年度の取り組みとプロジェクト概要

新駅を地域で育てる

上所校区コミュニティ協議会

令和7年春に開業するJR越後線・上所駅。長年にわたる地域の働きかけで開業することになった駅を大切にしていこうと、

新駅を地域で育てる

こととしました。

みんなが使いたくなる駅を目指し「越後線一きれいな駅」をスローガンに、取り組みを建設段階から行い開業後につなげます。

開業に伴う環境変化によってこれまでなかった問題がおこる可能性もあり、住民の声をもとに今から備え、安心安全な地域づくりを進めます。また、この取り組みをきっかけに、多様な世代の地域活動への参加も促したいと考えました。

(1) 建設主体であるJR東日本や周辺整備を行う新潟市・中央区と継続的な連携関係をつくる

→円滑な建設工事の推進・住民の不安の解消・開業後の協働体制づくり



周辺道路の整備に関する勉強会

(2) 「上所駅サポート隊(仮称)」を結成し、使いやすくきれいな駅であり続けるよう活動する

→事例学習や調査により具体的な取り組みを検討・実験的な取り組み実施

(3) 地域内への周知と仲間づくり、参加促進

駅と周辺地域は建設工事のため、令和5年度は関係機関との打合せなど情報共有や意見交換、地域側で行う取り組みのための学習を進めました。令和6年度には具体的な活動計画づくりと実験的な取り組みを行う予定です。



内野西が丘駅の視察研修では越後線を利用し乗降の様子も確認

西内野 地域力UPチャレンジ事業

西内野コミュニティ協議会



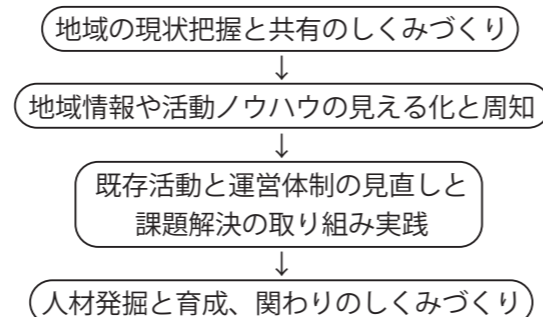
西内野コミ協では、さまざまな地域活動が行われ、参加者も多く賑わいをみせています。しかし、市内他地域と同様に、活動の担い手は高齢世代に偏りがち。将来を見すえて、

多様な世代が関わり、課題を解決しながら地域活動を持続するようにしたい

とスタートしました。

コミ協ではこれまでも自治会・町内会や地域内の各種団体が持つ力を活かして活動してきました。そして、住民の声は活動後の参加者アンケートや役員会、部会、自治会・町内会でそのつど確認してきました。その上で、自治会・町内会や各種団体からみた地域の現状やそれぞれの想いをあらためて振り返る機会にしよう、本事業メンバー同士の話し合いを進めました。

そこでまず、令和6年度からコミ協内に「運営会議」を設置。情報共有や共通認識づくり、意思決定などの改善を行います。さらに、地域の現状をより把握するためのアンケート調査を実施して検証。結果の見える化と地域内への発信と共有に取り組みます。その後は、活動や運営のあり方を見直し、検証に沿って人材育成を含めた持続可能な地域づくりのしくみを作り上げていきます。組織の力とともに地域の力も高める、西内野版・地域力UPチャレンジ事業です。



住環境再生 空き家・空き地リユースプロジェクト

岩室地域コミュニティ協議会(間瀬未来会議)

豊かな自然環境に恵まれているものの、高齢化や人口減少が加速的に進んでいることから、さまざまな地域課題を解決しなければ、とスタートした間瀬地区。まずは地域の現状を明らかにするため、独自で中学生以上全住民アンケート調査を実施しました。

アンケートによって現状や課題の実態を数値でも把握できたとともに、住民の皆さんに対しては、地域づくりに関する周知や理解、共感づくりを推進。それにより、新しく活動に加わってくださる方や新しいプロジェクトも生まれました。



アンケートの結果報告会には多くの住民が参加し、結果を共有

その後は取り組みについて検討を重ね、アンケート結果の中で関心の高かった空き家や空き地の問題から着手することに。この取り組みをもとに、生活支援の充実なども含めた、

安心して暮らせる地域づくりに住民が一体となって取り組める仕組みを作る

ことを本事業で進めます。

そしてさっそく「空き家マップ」づくりを開始。これからは家主との交渉や具体的な利活用の検討を行いながら、地域の茶の間の開催、お試し移住やツアーの実施といった間瀬に関心のある方々を呼び込む小さなイベントや社会実験など、目に見える活動を行っていく予定です。

住民による空き家マップづくりを開始



地域の浜茶屋プロジェクト

角田地区コミュニティ協議会



本事業に取り組むチームは子育て世代が中心。角田地区は地域ぐるみで子育てを行う良い環境がありながらも、人口減少と高齢化によって小学校の存続や高齢者の困りごと、伝統文化の継承といった心配ごとなんとかしたいと結成されました。そこで発想したのが、地域の海水浴場にある「浜茶屋」。人々が集まってリラックスして楽しめる「浜茶屋」の価値と特徴を活かし、

多世代が集まり、地域の課題も解決できる「みんなの居場所」をつくろう!

と始めました。

しかし、やりたいことや熱い想いはたくさん出てくる一方、「地域の中で求められているのかな?受け入れられるのかな?」「どうやったら続けていける?」「場所はどこの?集落が離れているから居場所に来られない人もいそう」など、みんなで頭を悩ませる時もありました。



そして話し合いを続ける中で悩みの解消も含めて見いだした方法が、キッチンカーを利用した移動式の居場所づくり。地域内のあちこちで居場所をつくり、さまざまな課題に対応する取り組みを進めることになりました。

令和6年度からは、地域内の各種イベントの際に外からキッチンカーを呼び、メンバーがお手伝いをしながらノウハウを学ぶことや、地域住民のニーズ調査、仲間づくり、実験的な取り組みを進めます。3月には、角田コミセンで行われた映画上映会で軽食提供や参加者アンケートを実施。春からの取り組みの第一歩となっています。